

第2回「生物資源の数理モデリング」シンポジウム

日時 2006年8月24日(木) 9時30分から17時まで

場所 東京大学・駒場キャンパス・11号館1106号室

(京王井の頭線・駒場東大前駅下車すぐ)

生物資源の保全・管理において、数理モデルによる評価および予測は重要な役割を担いつつある。しかし、扱う問題が現実的であるほど、モデル化の際の困難も多く、手法の高度化とともに、新たな発想が求められている。今回は、生態学、水産学、統計学に関する様々な話題を通して、これからの野生生物の数理モデリングにおいて何が必要なのか考えてみたい。

9:30 - 9:50 黒田啓行(遠洋水研)

「シンポの趣旨説明&アホウドリ混獲評価プロジェクトの紹介」

9:50 - 10:30 藤田剛(東京大)

「房総丘陵におけるシカ個体群管理のための空間明示モデル」

10:30 - 11:10 竹中明夫(環境研)

「多種共存メカニズムは、森林の構造にその痕跡を残すのか」

11:10 - 11:50 箱山洋(中央水研)

「在来淡水魚の生息地ネットワーク:湖沼-河川-水田の系に着目して」

(昼食)

13:00 - 13:40 岡村寛・仙波靖子(遠洋水研)

「アオザメ個体群トレンドの復元問題」

13:40 - 14:20 久保拓弥(北海道大)

「植物生態学研究で使われている MCMC 計算の紹介」

14:20 - 15:00 北門利英(東京海洋大)

「遺伝統計学的方法による集団構造の推定」

(休憩)

15:20 - 16:00 島谷健一郎(統数研)

「ベイズ型ノンパラメトリック推定」

16:00 - 16:40 竹内幸夫(遠洋水研)

「水産で使われる統合型資源評価モデル」

16:40 - 17:00 総合討論